

入選

浅見 咲綾(あさみ さや) 松枝小 5年生

作品名:言葉の力

図書:ことばの形

もしも話す言葉が目に見えたらどんな形をしているだろう。たとえば美しい言葉は花の形、大きくてやわらかい花はどんな言葉だろう。たとえばだれかを傷つける言葉が針のかたちをしていたら話すたびに口から発射されて相手に刺さるのが見えたとしたら言葉の使い方は変わるだろうか。自分をりっぱに見せるための言葉はすぐに光を失って砂のように枯れていくのが見えるかもしれない。そしてだれかをまもるためについたうそならそれはきっとしずかでやわらかな毛布になり、正直な言葉は心の湖の深い場所にすうっとさしこむとうめいな光のように。

この本はおーなり由子さん作の「ことばのかたち」という本です。「話す言葉が目に見えたらどんなかたちをしているだろう」という事をテーマに、いろいろな言葉を物や形、色に表しています。自分の話す言葉はどんな形や色をしているのだろうと興味をもち、この本を選びました。わたしもふくめ、わたしの周りには「バカ」「クソ」など汚い言葉を軽い気持ちで何も考えずに言って相手を傷つけてしまう人がたくさんいます。ある日、姉から「万葉集」というものを教えてもらいました。万葉集の中に「言霊の幸ふ国」というものがあります。「言葉の力によって幸福がもたらされる国」という意味です。言葉は頭の中で考えて、それを行動にうつし、それが現実となると思います。つまり今ある現実とは自分が発した言葉から成りたってくるという事です。そして使う言葉によって、幸せにも不幸せにもなると思います。やさしい言葉や正しい言葉は、人の心を温かくします。逆に汚い言葉や人をおとしめる言葉、悪口は使った本人と周りの人の心を冷たくしてしまいます。悪い言葉は、相手や周りだけでなく、自分が一番よく聞いていて、悪い言葉を使うと誰よりも自分自身が傷ついているという事が分かりました。これからは、自分もふくめ周りの人達が幸せになれるような言葉を使っていきたいです。そして、この本にある様にみんなの心に届く言葉がこもれびのように笑い周り自分の今ある現実を幸せなものへとできたらいいなと思います。